

探 究

探究 Co 便り 文：江口・大畑

令和6年12月18日(水)

NO. 10

開智探究の日 ～古畑先生の授業を通して学んだこと～

遅くなってしまいましたが、「開智探究の日」に授業を公開してくださった先生方と共に授業をふり返れるように、そして授業を参観することができなかった先生方に少しでも授業の様子を知っていただけるように授業の内容を探究便りでお知らせすることになりました。今回はそのシリーズ第2号、古畑先生の授業について江口と大畑先生が見させていただいた子どもの姿から授業の様子を紹介させていただきます。

自ら遊び、試しながらおもちゃ作りを進める子どもたち

授業の途中から参観させていただきました。教室に入っすぐ、楽しそうな2年生の姿が目に入りました。「どうしようかな」、「どうしたらよいか」と悩むのではなく、自分たちが(も)楽しいものを作ろうとする意欲を感じました。入口に一番近いグループは、紙コップの上下をひっくり返して、たくさん切り込みを入れ、たこのようにしました。それを2つ重ねて、片方に穴をあけ、割りばしを通すことで、ロケットのように飛び出すおもちゃを作っていました。一人がその動きを楽しみ、同じグループの子も「やらせて」と楽しんでいきました。「もっと強く押したら(より飛ぶんじゃないか)」と話す場面もありました。他のグループも紙コップを上手く工作し、いろいろ試していました。また、授業終盤で、本時の成果を発表し合う場面で、お互いの発表を聞き合う姿がとても立派でした。

本時は“年長さんに喜んでもらえるように”というねらいでした。まずは、自分たちが楽しむことでおもちゃ作りを進めていたと感じました。次時以降に、それを発展させ、年長さんが喜びそうなポイントや工夫を子どもたちが自分の言葉で語れるといいなと感じました。

子どもに委ねる探究とは・・・

「幼稚園児と一緒に交流をしたい」という願いのもと始まった探究。その第2弾として、「幼稚園児と工作で一緒に作って遊びたい」ということになりました。子ども達は事前に相談し、交流の日にその場で作って遊ぶのは、失敗してしまったら困るということで、本時は、まず自分たちで試してみることにしました。

古畑先生の授業の中で、いくつか子どもに委ねている場面がありました。その1つとして、「材」を委ねるです。子ども達は、あらかじめ古畑先生と相談して、新聞紙、段ボール、紙コップを使いたいと言っていたようで、教卓にはそれらの材料が準備されていました。古畑先生からの時間の見通しの説明が終わり、子ども達が一目散に向



かったのは、「紙コップ」。どの班も紙コップを持ちながら、どんなものができそうかグループで話し合っていました。

そして、もう一つは、「作りたいものを作る。」「〇〇を作ってみましょう」という指示は一つもなく、子ども達に作りたいもの作らせるというの、子どもに委ねている一つのポイントだと感じました。

参観された別の学校の先生からは、「どうして、紙コップなんだろうか」と疑問を持たれていました。それもそのはず。紙コップを切り刻んでいる班があったからです。その先生は、紙コップの良さが半減されているのではないかと考えたようですが、子ども達の様子を見ると、紙コップの丸みや立つ性質をうまく利用しながら、「〇〇を作ってみよう」「〇〇さんのアイディアいいね」など、楽しそうにやっている姿がありました。うまくいかないところは、グループで相談して解決しようとしていました。古畑先生とこの授業を振り返った際に、「担任がびっくりするくらい、自分たちで考えて行動できるようになった」とおっしゃっていました。6月の一人一公開を見させていただいた時は、子ども達はまだ言われたことは素直に取り組めてはいましたが、さらに自分たちはこうしたいという願いをもつことができていませんでした。しかし、子どもが「〇〇してみたい」「〇〇やってみたい」と言えるようになったのは、本時の授業だけでなく、日頃の授業から、「どの場面なら子どもに委ねられるのか」と考えて授業改善を行ってくださった古畑先生の努力の賜物だと感じています。

実際に交流をしたときに、教室ではなく多目的室で行ったので、ドミノを作った班は、じゅうたんだったため、倒れやすかったようです。どこまで、担任が声をかけるのか難しいと感じた古畑先生ではありましたが、子ども達を信じて自分たちでその場面を解決するように見守ったようでした。

子ども達から「自分たちが楽しくないものは、相手も楽しくない。」という言葉。自分たち対相手がいることで、その場で反応（フィードバック）をもらうことができました。人と関わることで、自己満足だけでは終わらない、そんな子ども達の姿が見られた古畑学級の交流活動になりました。

